

夜叉ヶ池

2013.6/25 ~ 30

新制作 / 創作委嘱作品・世界初演
New production
Commissioned Work,
World Premiere

Yashagaike (Demon Pond)

中劇場 | 5回公演 | 全2幕 (日本語上演 / 字幕付)

初演: 2013年6月25日予定 新国立劇場

作曲: 香月修 Katsuki Osamu (1948-)

原作: 泉鏡花 Izumi Kyoka

上演台本: 香月修 / 岩田達宗 Katsuki Osamu / Iwata Tatsuji

現実と非現実が交錯する夢幻の世界。日本の美しい旋律で描く永遠の愛の物語。

演目選定にあたって

新国立劇場は邦人作曲家によるオペラ作品の上演を劇場の重要な使命の一つとして考えています。尾高芸術監督第1シーズンでは、日本オペラ史上最高傑作といわれる團伊玖磨の『夕鶴』、2年目では遠藤周作の不朽の名作をもとに、台本・作曲の松村禎三が13年という歳月をかけて完成させた珠玉のオペラ『沈黙』を選びました。第3シーズンは、2010年『鹿鳴館』に続く待望の創作委嘱作品の登場です。作曲は、日本の美しい旋律を書くことができる作曲家として尾高芸術監督が全面的な信頼を置く、香月修に委嘱しました。歌曲を中心に完成度の高い美しい作品を数多く作曲してきた実績とその手腕に定評があり、大いに期待されます。また、演出に臨むのは、岩田達宗です。作曲家と共に原作となった泉鏡花による戯曲からオペラの上演台本を書き上げました。彼は東京文化会館50周年記念フェスティバル記念オペラ『古事記』演出でも大成功を収めています。新国立劇場では、2000年小劇場オペラの第1回『オルフェオとエウリディーチェ』公演を演出。現在では人気演出家として全国各地のオペラ公演を成功に導いています。この公演にいらしたお客様が、聴いたばかりのメロディーを口ずさめるような音楽で、新国立劇場から日本各地へ、そして海外に向けて発信できるような作品となることを目指しています。新国立劇場6作目となる新制作 / 創作委嘱作品・世界初演の『夜叉ヶ池』にどうぞご期待ください。

～尾高忠明芸術監督より～

日本のオペラが世界で認められるには、世界に通用する日本のオペラがなくてはならないと確信しています。世界に通用する日本のオペラとは、日本人がその作品を持って、海外で上演するのではなく、海外のオペラハウスが彼らなりに上演できる作品だと思えます。そういう作品を自分の任期中に作って上演し、皆さんに愛され、さらにこの作品が世界に羽ばたき、海外のオペラハウスでもレパートリーになればと願ってやみません。香月さんの音楽には、この願いを可能とする美しさに満ち溢れています。香月さんは私の高校時代からの同級生です。桐朋祭で私自身が“与ひょう”、井上道義が“惣ど”を演じたお芝居(オペラではない)『夕鶴』公演の音楽を担当してくれた彼のメロディーは、涙が出るほど美しかった。その後も、日本の素晴らしさを大事に音楽に込めて、心からにじみ出るような美しい作品を書いていらっしゃる。『夜叉ヶ池』は彼自身が長い間、温めてきた題材と聞いています。新国立劇場の中劇場で日本オペラの魅力に浸って頂きたいと思います。

～作曲家 香月 修より～

オペラ『夜叉ヶ池』への想い

泉鏡花の戯曲『夜叉ヶ池』と出会ってから、すでに30年以上の月日が流れました。20代の半ばにオペラを作曲、上演して以来、第2作を創ることは私が長年持ち続けて来た夢でしたが、早い時期からこの題材に注目していたこととなります。鏡花の作品の中で、例えば『天守物語』等と比較すると必ずしも高い評価を受けていない感のある『夜叉ヶ池』ですが、私はオペラの題材としてはとても魅力のある作品だと思っていましたし、実際に作曲してみて更にそれを確信するようになりました。それは先ず、現実と非現実が交錯する構成となっているので、我々は自然にその二つの世界を行き来し、幻想的な雰囲気を楽しむことができます。次に“百合”、“白雪”という性格の異なる二人の女性を中心に物語が展開し、“晃”、“学円”という二人の男性がそれを支えているという主役の人物設定、また、“鉾蔵”を中心とする“晃”を排除しようとする俗物的存在としての村人達との戦い、そして“鯉”、“蟹”、“鯰”の非現実世界でのコミカルな会話や所作等、多様な登場人物で彩られていることです。物語は最後に“百合”と“晃”の死の場面でクライマックスを迎えますが、その二人は“精霊”となり、永遠の愛を誓ってこの物語は終わります。このような多彩な登場人物が織りなす舞台では“愛”、“友情”、“不安”、“怒り”、“怨念”、“争い”、“滑稽さ”、“愚かさ”等々、実に様々な感情、そして人間模様が描かれています。

オペラのための台本は、先ず私が原案を作成し、演出の岩田達宗さんに直していただくという手順で出来上がりました。これまで多くの舞台を手掛けて来られた岩田さんからは多くの素晴らしい貴重なアイディアを頂くことができました。ですからこの作品は“鏡花の題材をベースにしたオペラのための新たな創作”である、と理解していただいた方がよいかもしれません。

さて、このオペラの委嘱のお話があった時、尾高忠明さんと私の間での共通のコンセプトは“誰でもくちざさむことが出来るうたのあるオペラを創りたい”ということでした。ですからこの作品には私のこれまでの歌曲の世界での経験をもとに、親しみ易く情感溢れるうたを書こうという想いが込められています。

2011年11月

～演出 岩田達宗より～

『夜叉ヶ池』は自然の逆襲による人間社会の滅亡の物語である。

自然を疎かにする、愚かで傲慢な人間が自らの世界を滅亡に至らしめる物語だ。

では、単に愚かな人間に対する否定の物語であろうか。厭世的な人間否定の物語であろうか？

否。これは逆説的な人間賛歌なのだ。

『夜叉ヶ池』で描かれているのは激しい対立と闘争の物語である。世界を破滅に導くほどの激しい対立と闘争の物語。美と醜、男と女、個人と社会の対立。理不尽にたいする正義の闘争。そして恋を成就するための凄まじい闘争。このような、ありとあらゆる対立と闘争がこの物語の全編を貫いている。

これらの対立と闘争を生むものは何か。

それは人間の欲望だ。そして、欲望を支える生命のエネルギー。激しく生きようとする人間のエネルギーだ。それを愚かと呼ぶなかれ、自らの世界を破滅に導くほどの激しい生命のエネルギー。生きる欲望。

この矛盾。この皮肉と逆説。

これこそが人間が人間たる所以ではないか。これ程の激しい生命のエネルギーと、欲望の力を描き切った物語は他に類をみない。つまり人間が人間である所以を謳いあげた物語は他にあるまい。

『夜叉ヶ池』は、人間の滅亡を通して、人間の持つ大いなる生命のエネルギーの凄まじさを謳いあげた賛歌である。愚かな人間の滅亡を通して描いた、逆説的な人間賛歌なのだ。

2011年12月

あらすじ

越前・三国ヶ岳山中の谷。夜叉ヶ池には、その昔、周囲の集落を襲う大水から人々を守るために、徳の高い僧が行力によって龍神を池に封じ込めたという伝説があった。これに興味を持って東京からやってきた萩原晃は、この谷にある寺の鐘楼番の後を継ぎ、龍神との約束通り日に三度(明六つ、暮六つ、丑三つ)鐘を撞き続けた。ある夏の日、家を出たきり音沙汰のない晃を心配した親友の学円が谷を訪れ、晃との再会を果たす。晃は村の娘・百合を妻としていた。晃は、学円を夜叉ヶ池に案内するため百合を家に残して山に入る。村では未曾有の陽照りが続いていたため、雨乞いの生贄として村で一番美しい百合を夜叉ヶ池に捧げるようになった。かつて、同じように生贄となり裸で牛に乗せられた白雪という娘がいた。白雪は辱めを受けた恨みで村を焼き、自らは夜叉ヶ池に身を沈めた。池の当主となった白雪姫は、白山剣ヶ峰千蛇ヶ池の公達に想いを寄せている。公達からの恋文が白雪姫に届く。一刻も早く会いに行こうとする姫に、夜叉ヶ池から出ると村が大水によって水没してしまい、人間との“鐘の約束”を破ることになると姥が引き留める。姫は人の命よりも我が恋が大事と反論するが、人里離れた山の中で鐘の約束を守り、晃の帰りを待つ百合の歌声に心打たれ、会いに行くかわりに返事を書くことにする。夜叉ヶ池に向かった晃と学円は、胸騒ぎがして家に戻ると、村人たちが百合を捕えようとしていたところだった。白雪の身に起こった過ちを繰り返してはならないという晃の懸命な説得にも関わらず、村人たちは晃と学円に襲いかかる。百合は晃の無事を願って自害する。絶望した晃は、鐘の約束を破り、丑三つの鐘を撞かずに百合の後を追って自分の咽喉を切る。夜叉ヶ池から白雪姫の喜ぶ声。空には黒雲が広がり、雷鳴が轟いて、大水が村を襲う。水の中で晃と百合がほほ笑む。

香月 修

夜叉ヶ池

Yashagaike (Demon Pond) / Katsuki Osamu

全2幕〈日本語上演／字幕付〉

原 作……………	泉 鏡花
Original Libretto by	Izumi Kyoka
上演台本……………	香月 修 / 岩田達宗
Libretto Adaptation	Katsuki Osamu / Iwata Tatsuji
作 曲……………	香月 修
Music by	Katsuki Osamu
指 揮……………	十束尚宏
Conductor	Totsuka Naohiro
演 出……………	岩田達宗
Production	Iwata Tatsuji
美 術……………	二村周作
Scenery Design	Futamura Shusaku
衣 裳……………	半田悦子
Costume Design	Handa Etsuko
照 明……………	沢田祐二
Lighting Design	Sawada Yuji
キャスト……………	未定
Cast	TBA
合 唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年6月25日(火) 6:30 29日(土) 2:00
 26日(水) 6:30 30日(日) 2:00
 28日(金) 2:00

中劇場

【チケット料金(税込)】

S : 15,750円・A : 12,600円・B : 8,400円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2013年2月17日(日)

夜叉ヶ池

Yashagaike (Demon Pond) / Katsuki Osamu

作曲：香月 修

Music : Katsuki Osamu

1948年佐賀県生まれ。桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。入野義朗、別宮貞雄 両氏に師事。作品は『クラリネット五重奏曲』（卒業作品）、オペラ『わらしべ長者』（日本オペラ協会委嘱作品）、フルート、ハーブ、チェロのための『トリオ』、『弦楽四重奏曲』『詩曲Ⅰ—独奏ヴァイオリンのための』（詩曲Ⅰはこれまで木野雅之、藤原浜雄、加藤知子、田中晶子各氏により演奏された。後に弦楽四重奏版、弦楽合奏版作成）、『詩曲Ⅱ—2つのヴァイオリンとピアノのための』（ミュージック・イン・スタイル／岩崎淑委嘱作品、音楽之友社より2012年出版予定）、『詩曲Ⅲ—ピアノ四重奏のための』（アンサンブル・アコルデ委嘱作品）、『プレリュード、アリア、フィナーレ—ピアノ四重奏のための』（ガブリエルカルテット／フランス 委嘱作品、07年パリ・東京で初演）、『子供の四季—児童合唱とオーケストラのための』（桐朋学園大学 子どものための音楽教室／富山教室 委嘱作品）、『三木露風の詩による三つの歌』（二期会、日本歌曲研究会委嘱作品 12年全音楽譜出版社より出版予定）などがある。三好達治、佐藤春夫、三木露風の詩による多数の歌曲は、これまで木村俊光、鮫島有美子をはじめとする多くの歌手たちのリサイタルなどで演奏されている。その他、合唱曲、童謡、子供のためのピアノ曲など多数。現在、桐朋学園大学音楽学部作曲科教授。日本作曲家協議会理事。日本現代音楽協会会員。11年日本音楽コンクール作曲部門審査員。新国立劇場初登場。



指揮：十束尚宏

Conductor : Totsuka Naohiro

東京都出身。桐朋学園大学指揮科及び研究科修了。故森正、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。在学中の1982年第17回民音指揮者コンクール第一位入賞。翌年夏、タングルウッド音楽祭にフェローシップ・コンダクターとして招かれ、クーセヴィツキー賞指揮大賞を受賞。84年、ボストン交響楽団に副指揮者として招かれ研鑽を積み、新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会で日本デビュー。同年ベルリンに留学、その間も再びタングルウッド音楽祭に招かれバーンスタイン、プレヴィン、スラットキンなどの各氏に師事。89年NHK交響楽団定期演奏会を指揮。海外では、ストックホルム・フィル、ゾーリンゲン、ニュルンベルクの各歌劇場管弦楽団、リスボン・グルベンキアン管弦楽団などに客演し好評を博す。97年、フランス・ノルマンディーの10月音楽祭に広島交響楽団と共に招かれる。近年ではフランス国立モンペリエ管弦楽団、フランス国立リール管弦楽団、ドイツ・ヘッセン州立劇場管弦楽団、ベルリン・コーミッシェ・オパー、ブリュッセル・モネ劇場管弦楽団などに客演。88年に群馬交響楽団の指揮者に就任、翌年より92年まで正指揮者を務める。92年から97年まで東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者、94年から98年まで広島交響楽団音楽監督を務める。2002年よりウィーン国立歌劇場にて研鑽を積む。その精緻な指揮と濃密な音楽作りで、今後の国内外での活躍が益々期待されている。新国立劇場初登場。

夜叉ヶ池

Yashagaike (Demon Pond) / Katsuki Osamu

演出：岩田達宗

Production：Iwata Tatsuji

神戸市出身。東京外国語大学フランス語学科卒業。大学卒業後、劇団「第三舞台」を経て、舞台監督集団ザ・スタッフでオペラの舞台製作に携わる。1991年より栗山昌良に演出助手として師事。98年より2年間渡欧、ドイツ、イギリスを中心に研鑽を積む。帰国後、本格的にオペラ演出家として活動開始。日生劇場、新国立劇場、びわ湖ホール、藤原歌劇団、日本オペラ協会、コレギウム・ムジクム、藤沢市民オペラ、愛知県文化振興事業団、神戸市演奏協会、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス、関西二期会、関西歌劇団、広島オペラルネッサンスなど各地のオペラ・プロダクションで作品を発表し、高い評価を得る。2007年より、いずみホール・オペラのプロデューサーを兼任。堺シティオペラ『三部作』、いずみホール『カルメル会修道女の対話』は、音楽クリティック・クラブ賞、大阪府舞台芸術賞を受賞。同じく堺シティオペラ『三部作』と愛知万博開催記念オペラ新実徳英作曲『白鳥』で佐川吉男賞を受賞。06年オペラ演出家として音楽クリティック・クラブ賞を初受賞。佐藤美枝子とのモノオペラ『幻想のルチア』、尾崎比佐子プロデュースによる『ロメオとジュリエッタ』、三木稔作曲『幸せのパゴダ』などの少人数による実験的な小劇場オペラでは台本を担当。最近の主な演出作品は、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』『ラ・ジョコンダ』、愛知県芸術劇場『ファルスタッフ』、東京文化会館50周年記念フェスティバル記念オペラ『古事記』など。全国各地のオペラ公演を成功に導き多忙を極め、“行列のできる演出家”の異名を持つ人気演出家。新国立劇場では2000年小劇場オペラの第1回『オルフェオとエウリディーチェ』『シャーロック・ホームズの事件簿〈告白〉』を演出、また『夕鶴』『エウゲニ・オネーギン』の演出助手や、新国立劇場オペラ研修所の研修公演『中国人の偶像〜リードロ・チネーゼ〜』で演技指導を務めている。

